

Japanese Graded Readers

レベル別
日本語多読
ライブラリー



にほんごよむよむ文庫

レベル **2** vol.2 8

Tsukimi

一 いっ
寸 すん
法 ほう
師 し



日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。

読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいですよ。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

にほんご よむよむ文庫 レベル 2

いっ すん ぼう し
一寸法師

再話 (さいわ) : 山崎 倶子 (やまざき ともこ)

挿絵 (さしえ) : うえだいずみ

監修 (かんしゅう) : NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。

二人には、子どもがいませんでした。

二人は、「子どもをください、子どもをください」と、

毎日、毎日、神様にお願ひしました。



すると、ある日、
男の子が生まれました。

おじいさんとおばあさんは、

「よかった、よかった。子どもが生まれた」

「元気な男の子だ」

と言って、とても喜びました。

でも、その子は、とても小さな子どもでした。

背は、三センチぐらいでした。

三センチは、古いことばで「一寸」です。

おじいさんは、

「この子は、『一寸の男の子』だから、名前は『一寸法師』だ」

と言いました。

おじいさんとおばあさんは、一寸法師を、とても大切にしました。

一寸法師は体は小さいですが、とても元気で、頭がいい子どもでした。



一寸法師は、十三歳になりました。

ある日、一寸法師は、おじいさんとおばあさんに言いました。

「わたしは京都へ行って、立派な人になりたいです」

「えっ、京都へ？」

おじいさんとおばあさんは、びつくりしました。

そのころ、京都は、日本で一番大きな町でした。

おじいさんは言いました。

「ここから京都までは、とても遠いです。

大変ですよ。あなたは小さいですから」

おばあさんも、泣きながら言いました。

「とても危ないですよ。行かないでください」



でも、一寸法師は言いました。

「私は小さいですが、もう十三歳です。

大丈夫ですよ。心配しないでください。

京都には、立派な先生がたくさんいますから、

私は、京都で勉強したいんです」

おじいさんは、

「わかった」と言いました。

おばあさんも、

「わかりました」と言いました。

つぎ ひ あさ いっすんぼうし
次の日の朝、一寸法師は、

おじいさんとおばあさんに言いました。

「行ってきます」

そのとき、おばあさんが言いました。

「この針をあげましょう。」

これは、あなたの刀です。

これを持っていきなさい」

そして、一寸法師に針を一本、渡しました。

それから、また言いました。

「お椀と箸もあげましょう。」

このお椀は、あなたの舟です。

これに乗っていきなさい」



いっすんぼうし
一寸法師は、

「ありがとうございます。では、お父さん、お母さん、行ってきます」

と言って、元気よく出かけました。



なんじかん ある
何時間も歩くと、川に着きました。

いっすんぼうし
一寸法師は、お椀の舟に乗って、

はし じょうず
箸を上手に使いました。



小さな舟ですから、

何日もかかって、京都に着きました。

一寸法師は、お椀の舟を降りて、

京都の町を元気に歩きました。

町には人がたくさんいます。

店もたくさんあります。

「わあ、にぎやかだなあ」

一寸法師は、店や建物を見ながら

歩いていきました。

すると、とても大きな家がありました。

「これは立派な家だ。この家で働いたり、勉強したりしたいなあ」

一寸法師は、門から中に入りました。

中は、とても広い庭でした。

一寸法師は、庭を歩いていきました。

そして、家の前に立つと、大きな声で言いました。

「ごめんください。ごめんください」

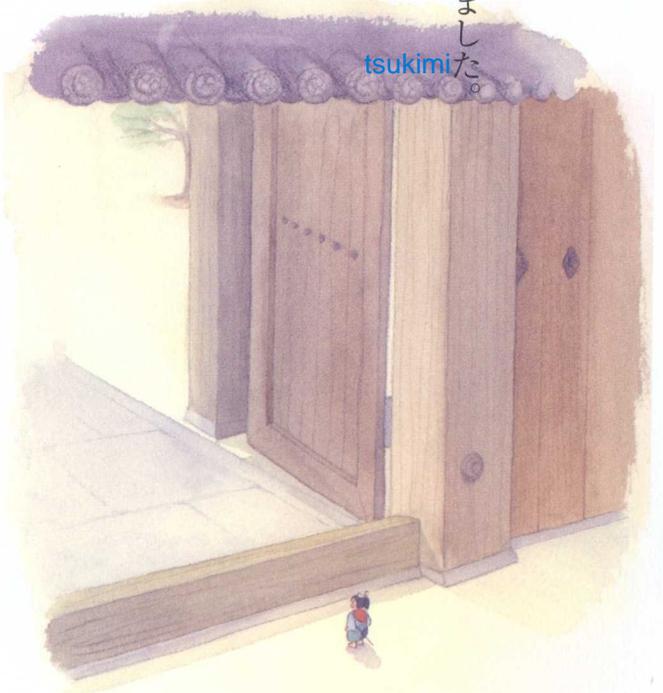
だれも来ません。

一寸法師は、家の中に入っていました。

もう一回、

「ごめんください。ごめんください」

と、大きな声で言いました。



すると、家の主人が出てきました。

「おや、だれもない」

主人には、だれも見えませんが。

一寸法師は、もつと大きな声で言いました。

「ごめんください。ごめんください」

声は、下駄の下から聞こえます。

主人は、下駄を持ち上げました。

すると、とても小さな男の子がいました。

主人は、びっくりして、

「あつ、何だ、これは？」

と言いました。

そして、一寸法師を手の上に置いて、よく見ました。



tsukimi

「だ、だれですか？ あ、あなたは？」

一寸法師は答えました。

「一寸法師です。私は、ここで働きたいです。」

そして、勉強もしたいです。

私は、体は小さいですが、どんな仕事もできます。

一生懸命働きますから、いろいろ教えてください」

主人は笑いました。そして、言いました。

「おもしろい子だ。」

今日から、この家に住んで、働きなさい。

そして、この家で勉強もしなさい」

「はい、ありがとうございます」



主人は立派な人でした。

お金もたくさん持っていました。

主人には、十歳の娘がいました。

娘と一寸法師は、一緒に勉強したり、

遊んだりしました。

一寸法師は、よく働いて、よく勉強しました。

家の人は、みんな、一寸法師が好きでした。

一年、二年、三年……。

一寸法師は、十六歳になりました。

娘は、とてもきれいになりました。



ある日、娘は言いました。

「今日は、いい天気です。

山へ遊びに行きたいです」

主人は、

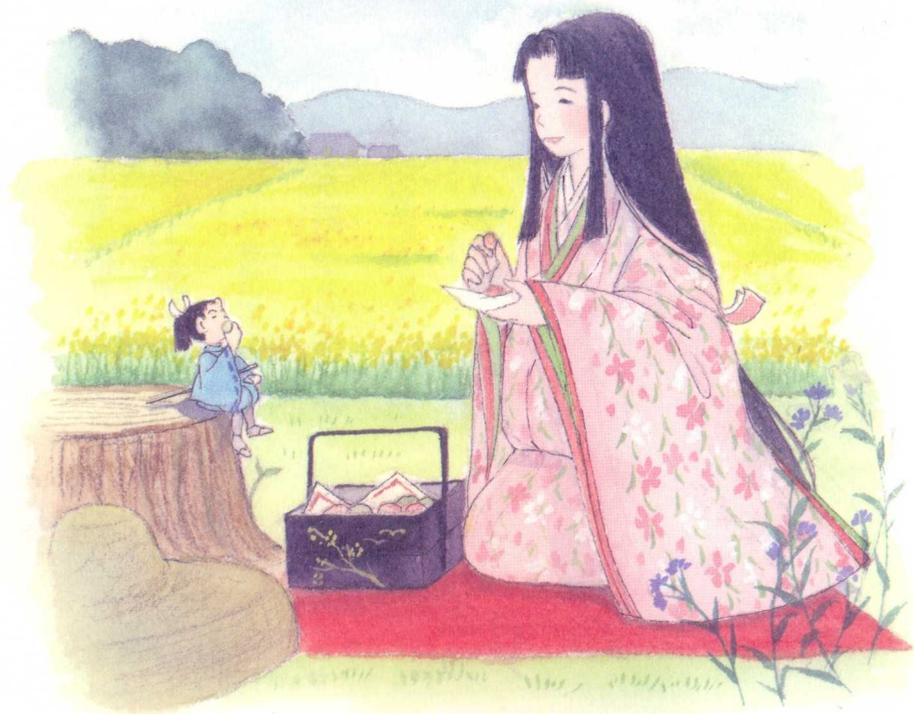
「一寸法師、一緒に行きなさい」

と言いました。

一寸法師と娘は、山へ行きました。

花をとったり、お菓子を食べたりして、

楽しく遊びました。





夕方ゆうがたになりました。

「もう、帰りかえましょう」

と、一寸法師いっすんぼうしが言いました。

そのときです。

空そらが暗くらくなって、強つよい風かぜが吹ふきました。

「がお——」

二人ふたりの前に、鬼おにがで出てきました。

「きゃあ——」

娘むすめは、びっくりして、

大きな声こえを出だしました。

一寸法師いっすんぼうしは、娘むすめの前まえに立たって、

針はりの刀かたなを出だしました。

鬼おには、

「わははははは……」

何なんだ、この小ちいさな男おとこは？」

と、笑わらって言いいました。

そして、娘むすめを見みて、思おもいました。

——きれいな娘むすめだ。

家いえに連つれて帰かえりたい——

鬼おには、娘むすめの手てをとりました。

「だめだ！」

一寸法師いっすんぼうしは、鬼おにの前まえに出でて、

針はりの刀かたなを高たかく上あげました。





「わはははは……」

鬼は、また笑いました。

そして、一寸法師を口に入れて、
ゴクンと飲みました。

でも、一寸法師は、

針の刀を持っていましたから、

その刀で

鬼のおなかの中を刺しました。

「痛い、痛い！」

鬼は、大きな声を出して、

すぐに、一寸法師を口から出しました。





「ごめんなさい、ごめんなさい」

鬼は泣きながら、急いで山の中へ帰っていきました。

「ああ、よかった。一寸法師は強いんですね。ありがとうございます、娘は言いました。」

そのとき、一寸法師が言いました。

「ここに何かあります。何でしょう?」

それは、鬼のものでした。鬼が忘れていったのです。

娘は、それを手にとって言いました。

「ああ、これは、『打出の小槌』ですよ。」

これを振りながら、お願いすると、したいことが何でもできるんですよ」

娘は、「打出の小槌」を一回振って言いました。

「一寸法師を大きくしてください」

すると、一寸法師は、少し大きくなりました。

娘は、また、「打出の小槌」を振って言いました。

「一寸法師を大きくしてください」

すると、一寸法師は、また少し大きくなりました。

娘が「打出の小槌」を何回も振ると、一寸法師は、立派な男の人になりました。

二人は、とても喜びました。そして、元気に家へ帰りました。



家の主人も、

一寸法師を見て、

とても喜びました。

一寸法師と娘は、

結婚しました。

おじいさんとおばあさんも、

京都にきました。

そして、みんな一緒に、

楽しく暮らしました。



<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研究をしたりしています。 <http://www.nihongo-yomu.jp>

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル2] vol.2

一寸法師

2007年6月1日 初版 第1刷 発行

2011年6月20日 初版 第2刷 発行

再話：山崎 俱子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

作画：うえだいずみ

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：篠原 明美 / 山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO法人日本語多読研究会 2007

Printed in Japan ISBN978-4-87217-642-1

Japanese Graded Readers

レベル別 日本語多読 ライブラリー



CD1枚
付き

ひらがなさえ
読めれば
読める!

レベル2が終わったら
次のレベルへ
ステップアップ!



公式HPで
視聴・試読が
できます!

www.ask-digital.co.jp/tadoku

にほんご よむよむ文庫

レベル0~4 / vol.1

レベル0~4 / vol.2

レベル1~3 / vol.3

監修: NPO法人日本語多読研究会
◎各A5判、レベル0: 6冊/1ケース
レベル1-4: 5冊/1ケース、CD1枚付き
◎各2,415円(税込み)



○レベル 2 vol.1
ISBN978-4-87217-625-4



○レベル 2 vol.3
ISBN978-4-87217-672-8

レベル 2 vol.1



絵姿奥さん



桃太郎



クリスマス
プレゼント



象のトンキー



一休さん

レベル 2 vol.3



日本のお風呂



いろいろな国の昔話
— 中国 —
ホウイとチャンア



ごん狐



ソーピーの冬の家



一休さん
— その二 —

お問い合わせ 株式会社アスク出版

tel : 03-3267-6864 fax : 03-3267-6867
<http://www.ask-digital.co.jp>



これは、日本語学習者のための「読みもの」シリーズです。
学習者がレベルに応じて、楽にたくさん読めるように、語彙や文法が制限してあります。

- 入門から中級まで5レベルあり、昔話、創作、名作、伝記など内容もさまざまです。
- 漢字とカタカナには全部ふりがなが付いています（カタカナはレベル3まで）。
- 制限語彙以外の言葉は、文中の説明や挿絵で理解できるよう工夫されています。
- 朗読CDを聴いて楽しんだり、シャドーイングしたりすることもできます。

レベル	能力試験	語彙	字数／1話	主な文法項目
0 入門		350	~400	現在形、過去形、疑問詞、~たい など ※基本的に「です・ます体」を使っています。
1 初級前半	N5	350	400 ~1500	現在形、過去形、疑問詞、~たい など ※「です・ます体」を使っています。
2 初級後半	N4	500	1500 ~2500	辞書形、て形、ない形、た形、 連体修飾、~と（条件）、~（理由）、 ~なる、~のだ など
3 初中級	N3	800	2500 ~5000	可能形、命令形、受身形、意向形、~とき、 ~たら・ば・なら、~そう（様態）、 ~よう（推量・比喻）、複合動詞 など
4 中級	N2	1300	5000 ~10000	使役形、使役受身形、~そう（伝聞）、~らしい、 ~はず、~もの、~ようにする／なる、 ~ことにする／なる など

※語彙は、『日本語能力試験出題基準【改訂版】』（国際交流基金・財団法人日本国際教育協会編、凡人社、2002年）の級別語彙表を参考に、文法項目は、市販されている主な初級テキストの文法シラバスを参考にレベル分けしています。

テキスト名	『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』 スリーエーネットワーク編著 スリーエーネットワーク 『新文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』 文化外国語専門学校編著 文化外国語専門学校 『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE Ⅰ～Ⅲ』 国際日本語普及協会編著 講談社インターナショナル 『Situational Functional Japanese Ⅰ～Ⅲ』 筑波ランゲージグループ著 凡人社 『初級日本語 げんきⅠ・Ⅱ』 坂野永理、大野裕 ほか著 ジャパンタイムズ
-------	--

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんごよむよむ文庫

レベル **2** vol.2 **8**

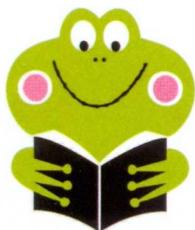


* 0 0 0 1 3 6 8 *

ウクライナ日本センター図書館

ウクライナ・日本センター図書館

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

一寸法師

小さな小さな一寸法師は、13歳になって、京都へ勉強に行きました。京都の大きな家で働きながら勉強する一寸法師は、ある日……。

レベル	クラス	語彙数	文字数/1話
0	入門	350	~400
1	初級前半	350	400~1500
2	初級後半	500	1500~2500
3	初中級	800	2500~50000
4	中級	1300	5000~10000